カトリック山形教会報
かすみ
4
2015.4.30

カトリック山形教会
〒990-0039　山形市香澄町2丁目11-15　TEL.023-622-3574　FAX.622-3590
ホームページ　http://www.catholic-yamagata.com/

山形に13年振りに二人の司祭

4月12日(日)、山形へ赴任されたばかりの千原通明神父・楠宗真神父によるミサが捧げられた。千原神父は1999年から3年間を山形教会で司牧され、2000年には「山形教会100周年」を山形教会の助任(当時の主任司祭はマクドナ神父)として迎え、2002年に米沢教会主任司祭となられた。楠神父は1979年から6年間を鶴岡で、1986年から6年間を酒田教会主任司祭として司牧され、山形にもゆかりある神父さまです。13年振りに二人の司祭を桜の季節に迎えられたことに感謝いたします。

着任のごあいさつ　アンデレ・ヨハネ　千原通明

この度、再び山形に戻ってまいりました。山形教会の後に赴任した米沢教会を離れたのが2005年でしたから、10年ぶりに山形県に戻ってきたことになります。自分の第二の故郷のように慕っていた地に戻って来られたことは、わたしにとって大きな喜びです。

今回は、山形聖マリア幼稚園の園長も引き受けることになりました。これは、わたしにとって大きなチャレンジです。また、今年度から来年度にかけて園舎の建て替えも控えています。これには、教会の皆様のご理解とご協力をお願いしなければなりません。

これから、山形教会のこと、皆様お一人おひとりのことを、よく教えてくだされば と思います。また、ご高齢やご病気のために教会に来られない方々の所にも、喜んで訪問させていただきたいと思っております。そして、お互いによく知り合って、信頼関係を築いていくことができますようにと願っております。キリストの愛に根ざした教会共同体として成長していきますように、共に努力してまいりましょう。一緒に住んで働く楠神父共々、どうぞよろしくお願いいたします。

ペトロ　楠　宗真

ご復活おめでとうございます。
このたび助任司祭としてカトリック山形教会へ参りました。よろしくお願い致します。みなさまの上に神さまの祝福とお恵みがありますように、お祈り申し上げます。

復活祭の祝賀パーティーで、新旧会長のツーショット。

復活祭が本間神父とのお別れの日になった。

花束を受け取り、別れを惜しむ本間神父。

いつも“見守られ”“支えられ”て　パウロ　沼沢敬志

12年の間、私が信徒会長を務めることが出来たのは、神様の導きとピアス神父、本間神父の両主任司祭のご指導（ピアス神父様からは「大切なことの見極め」「忍耐を持って時を待つこと」、本間神父様からは「積極的に行動すること」を学ばせていただいたことは貴重な経験となりました）と、ワルヨ神父、トニー神父、マルチネス神父の各助任司祭と山形教会の信徒の皆様が支え続けて下さったからにほかなりません、改めて感謝申し上げます。

会長職を仰せつかった2003年当時、私は教会活動には殆ど関わったことが無く、何をしなければならないのか、よく分からないまま引き受けてしまった事もあり、初めのころは「会長を引き受けたことは失敗だった、信徒の皆様に申し訳ない、この状況から逃げたい」と思ったことも多々ありました。しかし、選んで下さった皆様が納得するような仕事をし、期待に応えるのが自分の役割と考え、物事に取り組んできました。皆様の期待に応えられたかは別にして、貴重な経験を通して自分自身は大きく成長できたと実感しております。

就任後は、長年の夢であった信徒会館（現ヨハネ館）建て替えの他、老朽化が激しかった聖堂と司祭館の屋根の葺き替え、幼稚園西側の駐車場の取得、聖堂内装改修など、結果的に大きなプロジェクトを複数実施することになりました。当然、建物の建設の経験が無い、私一人ではできる事ではなく、建設委員会のメンバーをはじめ、多くの方の力を合わせて完成したものです。また、諸先輩方が将来のためにと資金を蓄えて下さっていたから実現したことであり、恵まれていたと感じるとともに、私たちも将来に向け準備する必要があると思っています。

いずれのプロジェクトも信徒の意見の集約が非常に難しく、自分の思いを伝えることの難しさを実感しました、特に、聖堂の内装改修工事の際は、意見をまとめ切ることができず、皆様につらい思いをさせてしまったことを申し訳ないと感じています。これらの経験から、「神様が望んでおられることは何か」という視点を意識すること、そして、その意識を常に保つことができるように祈ることが大切だと改めて実感しています。

私の任期中は、建物や土地などの外から見える物にほとんどの時間が割かれていました。これからは、私ができなかった信仰養成の取り組みの強化や信徒同士の活動を通じて、目に見えない部分の「信徒の霊的な成長が皆様と一緒にできたら良いと思います。

12年間支えていただき本当にありがとうございました。

自分のなすべきことを探して　ヨハネ　小林雅人

初めに、6期・12年という長い間、私たち山形教会の信徒の先頭に立たれ、大きな仕事を成し遂げてくださった沼沢前会長に心から感謝いたします。

私に会長の話が持ちかけられたのは、昨年の9月ごろでした。いつものように教会に予定表を届けに行ったとき、「次の会長はあなたにお願いしたいです。」と本間神父から突然告げられました。ここ数年間のうちに幼稚園の評議員や公和会の理事などをお願いされたこともあり、「神父様、またですか?あれもこれも無理です。」と返事をしましたが、本間神父のつぶらな瞳を見ると「いやです。」とは言えませんでした。後日、「分かりました。覚悟を決めました。これからよろしくお願いします。」と伝えた数カ月後、今度は

「私は管区長になるかもしれませんから、私がいなくなっても頑張ってください。」とのお言葉。「やっぱり試練が与えられるのか。」というのが率直な気持ちでした。しかし、このような展開は以前にもあったような気が…。

そうです。山形教会が100周年を迎えるときも、弟に「100周年の委員長を…。」とお願いし、本間神父は鶴岡教会に異動になってしまったことがありました。偶然とはいえ、兄弟で同じようなことが起こるとは…。

私が山形教会に転入した37年前の信徒会長は戸田さんでした。信徒を力強く率いるとても大きな存在でした。その後、沼沢忠一さん、太田実さん、陣野重雄さん、川村新蔵さん、沼沢敬志さんと会長が受け継がれました。いずれの会長も山形教会の顔としてご活躍された方々です。

自分は会長として何ができるのだろうか、何をすべきなのだろうかという不安もありますが、物事は悪く考えるより、良い方に捉えるようにしていますので、最初の1期・2年は勉強のときとして多くのことを吸収していきたいと思います。また、心強いのは代表者委員会の方々という優秀な参謀が付いておりますし、何より山形教会の信徒の皆さんが後押しをしてくれると信じています。

今年は山形県が担当となる「新潟教区大会」が10月に予定されています。県内の各教会からも協力していただくことになりますが、中心となるのは山形教会になると思いますので、他県の信徒を迎え入れるホスト側として、一人でも多くの皆さんに参加をしていただくことが最初のお願いになると思います。まだまだ軌道に乗るまでには時間がかかると思いますが、千原・楠両神父と一緒に「小さな声」に耳を傾けていくのが私のなすべきことだと思います。

古里慶史郎神父様の黙想会にて

3月29日聖週間の始まりの主日にフランシスコ会修練院・修練長の古里神父様による黙想会がおこなわれました。

主のエルサレム入城の記念からエルサレムの神殿境内の説明をしてくださり神殿内をごらんになられたイエス様は何を見て何を心にとめられ何を愛されていたかをお話しくださいました。

またヨハネ福音書第8章を引用して罪についてもお話しくださりとても考えさせられました。そのなかに登場される人物に自分をおきかえてそれぞれの感情や思いに心を巡らしイエス様の愛や思いをかんじることができました。

ふとねる前に「私の心の中に立たれているイエス様をかんじて今日をすごせていたか。」という古里神父さまの言葉を思いだしました。私の心のまんなかに立たれているイエス様を…。なんと幸せなことでしょうか。慈しみの愛と恵みにつつまれてすごせていること、いいえ生かして下さっていることを感じながらいつのまにか眠りについていました。

今日も神に感謝。

（マリア・ローザ　柴田利津子）

世界祈祷日に参加して

3月6日、カトリック山形教会で「バハマからのメッセージ-わたしがあなたがたにしたことが分かるか」をテーマに世界祈祷が行われました。山形県内の9つの教会から70名以上の参加者のもと開催されました。

私は参加するのが2回目ですが、今年は礼拝への招きの朗読や会衆の言葉が主への祈りの言葉で締めくくられており、まさに祈りに満ちた日だったと思います。

パンフレットの言葉にもありましたが、この世界祈祷は世界中で行われます。各々の国の時間で始まることを考えると時間の流れにのり、祈りが繋がって行くのです。この四旬節という時期に、主イエス・キリストのもとで宗派の違いはあっても誰かのために心を寄せて一緒に祈ることが出来ることはとても大切な感慨深いものでした。

この日の入祭の歌「ガリラヤの風かおる丘で」で私たちは主イエスに御言葉を　聞かせてくださいと歌います。この祈祷日の祈りや四旬節での祈りがその時だけの事ではなく、日々の生活の中で聞く耳や心を持ちながら、主イエス・キリストの言葉を聞く事ができますようにと思いました。

二部の茶話会では、自己紹介で久しぶりにカトリック山形教会に来た、という方も何人かいらっしゃり、和やかな時間を過ごしました。

今年は典礼部として祈祷日の準備にあたりました。反省点がいくつかあり、次につなげていかなければならないと思ったことと同時に、一人ではなく各々が役割を果たしながらまとまっていく大切さを思いました。

（聖マグリット・マリー・アラコク　村川智実）

復活徹夜祭に三人が洗礼の秘蹟を受ける

洗礼式を迎えて

ジョセフ　大沼　康（こう）さん（写真左）

私が神様を意識する様になったのは妻の影響です。いつもキリストさまにお祈りする姿に私も興味を持ち、そしてミサに誘ってくれました。最初は良く分からなかったものの、本間神父様、教会の皆様の祈る姿勢に触れ次第に日曜日のミサに参加させて頂き、私も神と祈りに触れたいと思いました。

洗礼の勧めを受けた時、まだ何も学んでいない私は迷いましたがすべて神様にお任せしようと思いました。洗礼式では神様の恵みと皆様の暖かい眼差しを強く感じました。これからも信仰を深め感謝と祈りを捧げていきたいと思います。

ありがとうございました。

洗礼式の恵み

フランシスコ　ザビエル　熊谷　健孝（たけのり）さん（写真右から2人目）

「洗礼を受けるにはどうしたらいいのか」と自分から言いましたので神父さまにご相談して、勉強をさせていただき今日、洗礼のお恵みをいただくことができました。とても嬉しく思っております。（妻　熊谷幸子）

人生の総決算を笑顔で

ルツ　井上喜代子さん（写真右）

私がこの教会にかよい始めてから三年余りになります。当時、終活ブームが、熱を帯びており、エンディングノート（遺言書）が上映されていました。

またラジオ体操仲間の80代前後の人も配偶者を亡くした折に、既に戒名をもらったと話しており、私もそろそろ健康なうちに旅立ちの備えをしておかなければと思ったのが教会へ通う動機でした。

我が家は先祖代々仏教徒ですが、法要以外は日頃、お寺や住職との関わりがなく、葬儀の時だけ、仏の供養について説教され、新しい生き方のヒントは得られず不満の種ではありました。また読経・声明の唱えにも理解出来ない部分が多く、学び合える仲間もなく改宗を決断しました。

私の場合、70歳直後からのキリスト教入門という形になります。カトリック通信講座により、―初歩的な教理―どのように生きていかなければならないのかを絶えず語りかけておられるキリストについて学びました。テキストに取り組み、レポートのやりとりを一年半かけてやっと終了することができました。そして今日のこの洗礼式、洗礼を授けて頂いた時は、自分がエンジェルにでもなった心境で、やはり一生の美しい思い出の1ページとして残りました。洗礼名の「ルツ」については、ヘブライ語による短編物語の珠玉といわれる「ルツ記」より名前を頂きました。悲惨な境涯にある姑ナオミの人生の、同性のために献身する嫁ルツが描かれているものです。そのルツの健気な姿に胸を打たれたのでした。わたしたち十歳違いの二人だけの姉妹もこのように余生を生きたいものです。

信仰心の薄いものではありますが、趣味としている音楽の宗教音楽を通して、神に近ずくことを教えてくだっさった父、父をを持たせて下さった神に感謝する私です。現況は神の子となり、新しい人生に、これから入っていくのだという、幾分緊張感を覚えます。

これまで本間神父様、代母の小川さん他、たくさんの方々のアドバイスをいただき,ここまでこれましたこと感謝の気持ちで一杯です。これからもよろしくお導き下さいますようにお願いいたします。

本当に本当にありがとうございました。